

(1) 日食前

1年前から事務局長にツアー参加を表明しておりました。そして、申し込み番号(もしあれば)の1、2番を夫婦でゲットすることができました。金額を聞くと、3万円台とのことでした。これならだめで元々(失礼)、と参加することにしました。

出発の日に、アパートから駅までタクシーにりましたが、「どちらへ旅行ですか？」運転手さんに聞かれて「南の島までです。」と答えたら、「日食ですか。」との返事があったので、日食の知名度恐るべし、と感心しました。

バスで着いた鹿児島島の港では、お客さんと荷物がたくさん並んでいて、多くの人が種子島か屋久島に渡ることが分かり、大変なものだなと感心しました。

窓の外は冴えない灰色の世界で、天気ははっきりしない状態でしたが、日食気分を盛り上げてくれたのが、港の待合室で見た、日食の窓でした。11枚が並んでいて、食分が0.00から1.00まで0.1刻みでちゃんと並んでいたの感心してしまいました。



また、椅子には黒と黄色のカバーが掛けられて、うれしいもてなしでした。

種子島までは、ジェットホテルの「ロケット号」で行きましたが、西之表港では島の人たちがパンフレットなどを配って歓迎してくれました。

(2) 日食観測

日食当日は朝からどんよりとした天気でした。観測場所の門倉岬に着いても雨がパラパラの状態だったので、半分あきらめ気分でしたが、時間もあったので岬観光をしました。多くの人が観光していたので驚きました。

地元の人が出していた売店では、パッションフルーツなど地元の産物、日食Tシャツや日食タオルなど日食関連グッズがありました。記念になるので、つつい T シャツなどを買ってしまいました。

観測は、バスの駐車場のすぐ横のスペースでできました。事前に草を刈ってくれていたの助かりました。今回のために新調したデジカメを三脚にセットし、ビニール

袋を掛けました。小雨が降っては傘を差し、雨が上がって傘を置き、そんな繰り返しでしたが、その様子は神さんのカメラがしっかりととらえてくれていました。(感謝)

一度太陽が見えた時は、カメラを向けましたが、皮肉にも直接ファインダーでフィルターなしで確認できました。部分日食がなんとか一枚撮れたかな、と思ったら雲に隠れてしまいました。

第2接触の時間が近づいてくると辺りはだんだんと暗くなり、皆既の時間を知らせる声を聞いたときには暗くなっていました。携帯のカメラで動画を撮りましたが、ほとんど見えません。見えるのはバスの明かりと地平線方向の明るい部分だけでした。フラッシュが2回ほど、後はカメラのモニターから漏れる明かりだけでした。本当に皆既帯でしか味わえない貴重な体験でした。第3接触の後には、どんどん明るくなって、朝のような感覚でした。

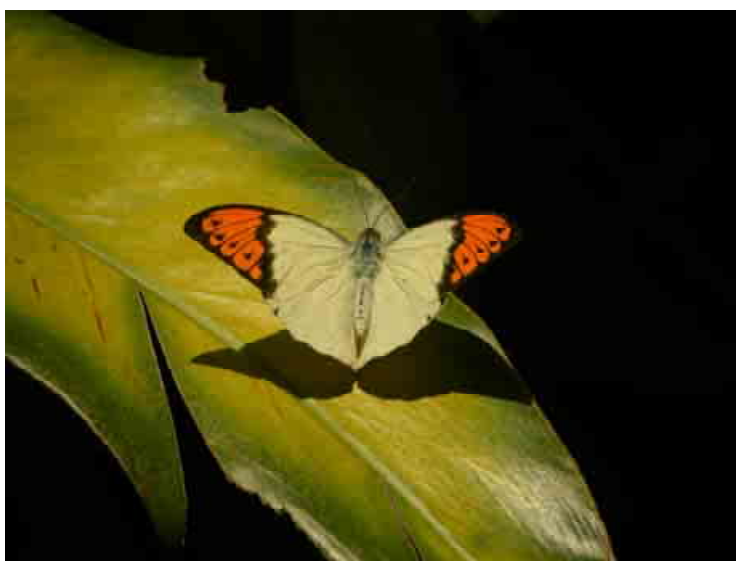
(3) 日食後

皆既後も相変わらず雨は降ったりやんだりでした。その後はJAXAの宇宙科学技術館に行って見学しました。駐車場で山本寛斎氏が歩いていたのでみんなで手を振ると、こちらに気づいて答えてくれました。やはり日食観測でしょうか？

翌日は朝から天気が良く、帰るために港まで行く途中でオプションとして、海岸の砂浜に下りて南の島の空と海を楽しみ、ヒルガオやハマゴウの花を見つけました。

その後、ポルトガル船のような形の博物館に行って、たくさんの火縄銃を見ました。

また、館内で西之表市の蝶に指定されているツマベニチョウが飛んでいるのを見ました。幸せを呼ぶ蝶とのことなので、見ることができて良かったです。



初めての皆既日食観測でしたが、コロナを見ることはできなかったのは残念でした。機会があれば、いつかぜひ見たいですね。幸せの蝶のおかげで、次の日食には期待が持てるかな？

最後に、夫婦で参加させていただいてありがとうございました。